

(品目別需給編)

# 1 小麦

## (1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

**生産量** 前年度比 前月比

- ・EU 等で上方修正も、豪州等で下方修正され、前月から下方修正されたが、史上最高の見込み。

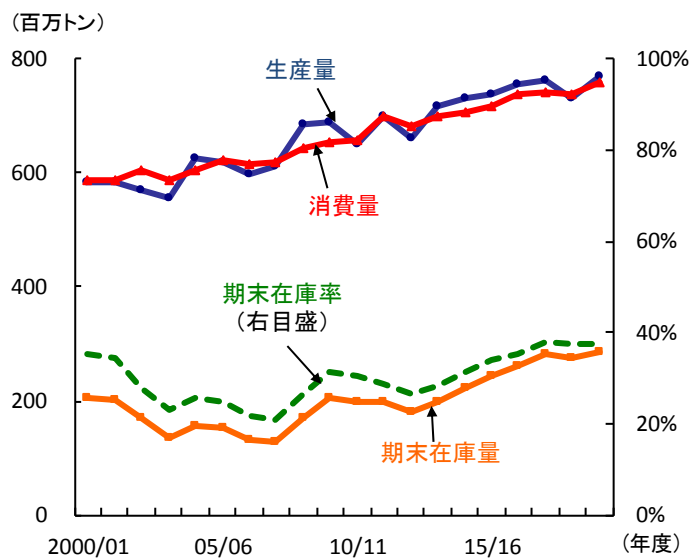
**消費量** 前年度比 前月比

- ・ロシア等で下方修正され、前月から下方修正されたが、史上最高の見込み。

**輸出量** 前年度比 前月比

- ・EU 等で上方修正も、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2019.9.12)をもとに農林水産省にて作成

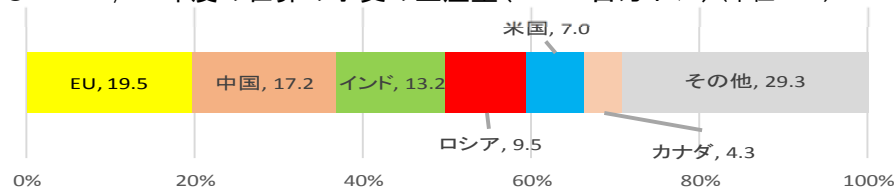
## ◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

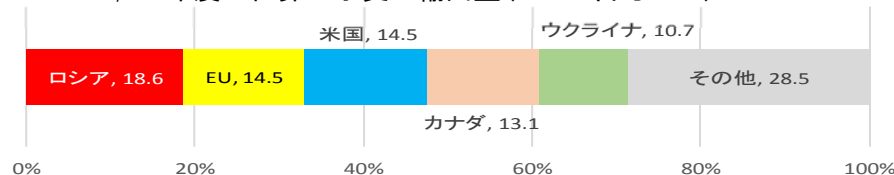
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	762.3	730.8	765.5	▲ 2.5	4.7
消費量	742.6	735.5	756.3	▲ 1.9	2.8
うち飼料用	146.3	139.4	149.0	▲ 1.3	6.9
輸出量	182.1	172.7	180.8	▲ 1.8	4.7
輸入量	179.8	170.2	176.8	▲ 2.2	3.9
期末在庫量	281.9	277.2	286.5	1.1	3.3
期末在庫率	38.0%	37.7%	37.9%	0.2	0.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 September 2019)

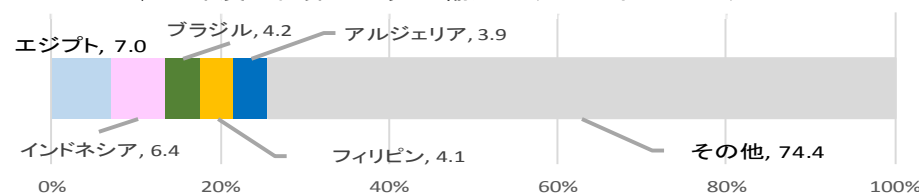
### ○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量 (765.5 百万トン) (単位：%)



### ○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量 (180.8 百万トン)



### ○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量 (176.8 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.9.16)によれば、2019/20年度の春小麦の収穫進捗率は、9月15日時点で76%となり収穫が終盤を迎えているものの、前年度同期(97%)及び5年平均(93%)を下回っている。また、冬小麦は8月下旬から9月上旬にかけて収穫は終了。同年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.9百万トンとなる見込み。内訳は、冬小麦、春小麦、デュラム小麦とも前月からの変更はなく、それぞれ36.1百万トン(対前年度比12.0%増)、16.2百万トン(対前年度比4.3%減)、1.6百万トン(対前年度比25.8%減)の見込み。

また、2020/21年度の冬小麦の作付けが開始されているものの、作付け進捗率は8%と前年度同期(12%)及び5年平均(12%)を下回っている。主要産地のカンザス州、ネブラスカ州では前年度並み、一方、オクラホマ州や、太平洋岸のワシントン州では前年度を下回っている。

【貿易情報・その他】輸出量は、前月からの変更はなく26.5百万トンの見込み。品種別には、前月からハードレッドウインター(HRW)が2.7万トン上方修正されたものの、ハードレッドスプリング(HRS)及びソフトレッドウインター(SRW)の計で2.7万トン下方修正された。

米国の小麦輸出先国別輸出量 (輸出検証高) (万トン)

	国名	輸出検証高		
		2019年累計	7月	8月
1	メキシコ	236.9	24.8	45.4
2	フィリピン	207.9	15.6	32.1
3	日本	171.2	8.6	33.2
4	ナイジェリア	169.9	7.6	11.3
5	台湾	89.9	10.8	14.1
6	その他	1,013.6	95.9	139.2
	計	1,889.5	163.4	275.5

2019年累計は、2019年1月3日から2019年9月5日の合計。

小麦—米国

(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予 測 値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.4	51.3	53.9	-	5.1
消費量	29.3	30.2	32.6	-	7.9
うち飼料用	1.3	2.6	4.6	-	76.7
輸 出 量	24.7	25.5	26.5	-	4.2
輸 入 量	4.3	3.7	3.7	-	-
期末在庫量	29.9	29.2	27.6	-	▲ 5.4
期末在庫率	55.5%	52.4%	46.7%	-	▲ 5.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.20	16.03	15.54	-	▲ 3.1
単収(t/ha)	3.12	3.20	3.47	-	8.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「Grain: World Markets and Trade」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)

米国産品種別小麦の輸出価格の推移 (2018.8.3~2019.8.30)



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2019.9.12)

注) HRW:ハードレッドウインター SRW:ソフトレッドウインター  
SWW:ソフトホワイト HRS:ハードレッドスプリング

< カナダ >

【生育・生産状況】

主要産地の平原三州では、9月に入り乾燥型から湿潤型の天候となり、土壌水分は改善されたものの、収穫作業に遅れが生じた。

各州政府によれば、天候の回復に伴い収穫作業が再開されたが進展は遅く、アルバータ州、サスカチュワン州、マニトバ州のそれぞれの収穫進捗率は、14.7%(9月17日現在)、13%(9月19日現在)、86%(9月24日現在)。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく33.3百万トンと、前年度より3.4%増加する見込み。なお、カナダ農務農産食品省(AAFC)の9月報告によれば、生産量は、前月予測からわずかに下方修正され32.5百万トン。内訳は、普通小麦が上方修正(27.5百万トン)されたものの、デュラム小麦が下方修正(5.0百万トン)された。

【貿易情報・その他】輸出量は、期首在庫の増加予測から、前月予測より0.5百万トン上方修正され24.5百万トンの見込み。

< 中国 >

【生育・生産状況】中国中央气象台によれば、2019/20年度は、冬小麦の収穫は7月に終了、春小麦は9月上旬現在、河北省等で開花期から乳熟期、新疆地区等では成熟期に入っている。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.4%増加の132.0百万トンの見込み。

中国糧油情報センターによれば、2019/20年度の生産量は134.0百万トン。内訳は、冬小麦、春小麦とも前月予測からの変更はなく、それぞれ127.0百万トン、7.0百万トンの見込み。また、本年度の小麦の品質は比較的良好である。

【貿易情報・その他】国家食糧・物資備蓄局によれば、主産地では生産量の増加により政府買入のペースが速く、買入数量は前年同期より18.2百万トン増加し、62.8百万トン。

小麦－カナダ

(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、( )はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	30.4	32.2	33.3 (32.5)	-	3.4
消費量	9.3	8.5	9.6 (8.8)	0.3	12.4
うち飼料用	4.4	3.6	4.6 (4.2)	0.3	26.4
輸 出 量	22.0	24.4	24.5 (23.9)	0.5	0.4
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.1)	-	-
期末在庫量	6.5	6.2	5.8 (6.1)	0.7	▲ 5.7
期末在庫率	20.7%	18.8%	17.1% (18.7%)	1.7	▲ 1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.98	9.88	9.70 (9.78)	-	▲ 1.8
単収(t/ha)	3.38	3.26	3.43 (3.32)	-	5.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)、  
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 September 2019)

小麦－中国 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	134.3	131.4	132.0 (132.0)	-	0.4
消費量	121.0	125.0	128.0 (128.7)	-	2.4
うち飼料用	17.5	20.0	21.0 (20.8)	-	5.0
輸 出 量	1.0	1.0	1.3 (1.2)	-	28.7
輸 入 量	3.9	3.2	3.2 (3.6)	▲ 0.3	1.6
期末在庫量	131.2	139.8	145.7 (127.1)	▲ 0.3	4.2
期末在庫率	107.5%	110.9%	112.7% (97.9%)	▲ 0.2	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.51	24.27	24.10 (24.00)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	5.48	5.42	5.48 (5.50)	-	1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)、  
IGC 「Grain Market Report」(29 August 2019)

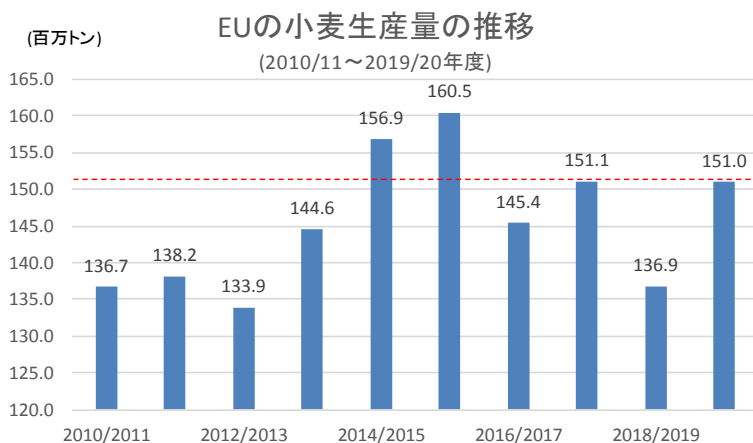
## < EU >

【生育・生産状況】EU委員会によれば、2019/20年度の小麦の収穫は英国北部、アイルランド等の一部を除き終了している。ルーマニアの一部、スウェーデン等で、高温・乾燥天候の影響により品質低下が懸念されている。

USDAによれば、生産量は前月予測から1.0百万トン上方修正され151.0百万トンと、EUの5年平均（151.0百万トン）並となる見込み。また、干ばつで生産減となった前年度と比べ10.3%増加する見込み。主要生産国のフランスでは、6月下旬から7月の厳しい熱波の影響が懸念されたものの、その影響は予想より軽微で、生産量は前月予測から1.5百万トン上方修正され40.2百万トン。一方、ドイツでは熱波の影響により前月予測より0.6百万トン下方修正され23.3百万トン。

USDAによれば、2020/21年度の冬作物の作付けを控え、フランス、ドイツ北西部では、降雨が望まれている。一方、イタリア北部からドイツ南部/東部、東欧諸国にかけては9月半ばの降雨で、適度な土壌水分が保たれた。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産予測の上方修正や強い価格競争力から、前月予測から1.0百万トン上方修正され27.5百万トンの見込み。



資料：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成。

## 小麦—EU

### (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、( )はEU	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	151.1	136.9	151.0 (150.6)	1.0	10.3
消費量	130.4	123.2	127.5 (127.5)	-	3.5
うち飼料用	58.0	52.0	56.0 (53.4)	-	7.7
輸 出 量	23.3	23.3	27.5 (26.4)	1.0	18.0
輸 入 量	5.8	5.8	5.5 (5.4)	-	▲ 4.5
期末在庫量	14.0	10.1	11.6 (16.5)	0.4	14.9
期末在庫率	9.1%	6.9%	7.5% (10.7%)	0.2	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.16	25.58	26.10 (26.04)	▲ 0.05	2.0
単収(t/ha)	5.78	5.35	5.79 (5.8)	0.05	8.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
USDA「PS&D」(12 September 2019)  
EU「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(29 August 2019)

### 収穫が終了した小麦の圃場

#### フランス共和国イル・ド・フランス地域圏リュミニー近郊

—6月から7月の熱波の影響は、予想より軽微であった。—



## < ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、9月上旬、ロシア全体の収穫進捗率(冬及び春小麦)は70%となった。生産量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され、72.5百万トンの見込み。内訳は、冬小麦が前月予測からの変更はなく54.0百万トン、春小麦は前月予測から単収が0.04トン/ヘクタール下方修正されたため、0.5百万トン下方修正され18.5百万トン。春小麦は7月と8月に高温乾燥天候に見舞われ、特に沿ボルガ連邦管区南部とシベリア連邦管区南部では大幅に単収が低下した。

一方、ロシア農業省は、9月16日時点で、収穫進捗率を80.2%、生産量を75.1百万トンと見込んでいる。ロシア穀物品質評価センター公表(9月11日)によれば、品質は全体的に昨年度より良い。また、ロシア農業市況研究所によれば、黒海、アゾフ海から8月に輸出された新穀の小麦は全てタンパク含有率が12.5%以上であった。

なお、2019/20年度の冬小麦の作付けが、8月上旬から北西、中央、沿ボルガ連邦管区の一部地域で開始され、9月13日時点ではロシア全土の作付進捗率は48.8%となった。なお、沿ボルガ連邦管区南部では、土壌水分不足の状態が続いている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく34.0百万トンの見込み。7月の輸出先上位5ヶ国はトルコ(33%)、エジプト(13.7%)、南アフリカ(5.3%)、ベトナム(4.7%)、スーダン(4.0%)の順であった。

2018/19年度のロシア産小麦の輸出先国別輸出量とシェア (万トン)

エジプト	トルコ	バングラデシュ	ナイジェリア	スーダン	イエメン	ベトナム	インドネシア	その他	合計
739.3	523.5	189.6	131.9	124.1	123.7	122.5	104.6	1457.6	3516.8
21.0%	14.9%	5.4%	3.8%	3.5%	3.5%	3.5%	3.0%	41.4%	100.0%

資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成。

## 小麦ーロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

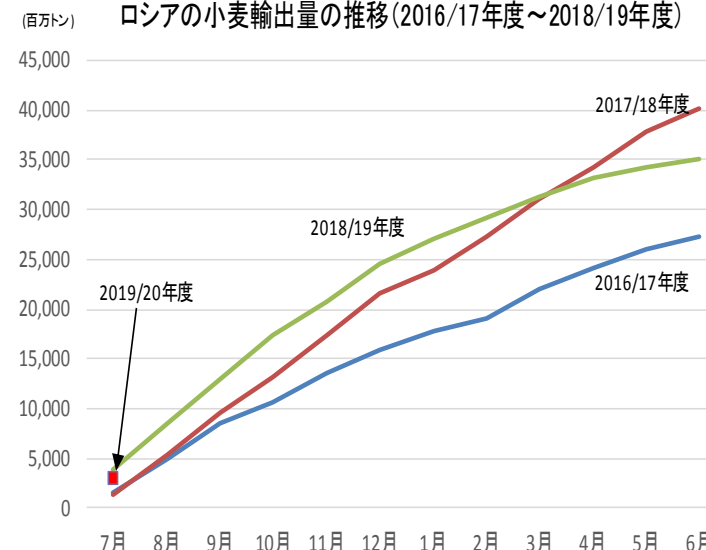
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	85.2	71.7	72.5 (73.7)	▲ 0.5	1.1
消費量	43.0	40.5	39.5 (41.3)	▲ 0.5	▲ 2.5
うち飼料用	20.0	18.0	17.0 (18.0)	▲ 0.5	▲ 5.6
輸 出 量	41.4	35.9	34.0 (33.1)	-	▲ 5.2
輸 入 量	0.5	0.5	0.5 (0.3)	-	6.7
期末在庫量	12.0	7.8	7.3 (9.6)	▲ 0.2	▲ 6.6
期末在庫率	14.3%	10.3%	9.9% (12.8%)	▲ 0.1	▲ 0.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	27.37	26.34	27.00 (27.30)	-	2.5
単収(t/ha)	3.11	2.72	2.69 (2.70)	▲ 0.01	▲ 1.1

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(29 August 2019)

ロシアの小麦輸出量の推移(2016/17年度～2018/19年度)



注 2016/17年度：2016年7月～2017年6月

2019/20年度：2019年7月(赤色の点)

<豪州>

【生育・生産状況】USDAによれば、ウェスタンオーストラリア州では、9月上旬に乾燥型天候となり土壌水分が低下。ビクトリア州、サウスオーストラリア州では小麦が栄養生長期から生殖生長期を迎えているが、さらなる降雨が望まれている。ニューサウスウェールズ州及びクィーンズランド州では、降雨があったものの、土壌水分の改善には繋がらず干ばつ状態が続いており、作柄見通しが更に悪化。

2019/20年度の生産量は、前月予測から2.0百万トン下方修正され、19.0百万トン。

なお、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian crop report」(2019.9.10)によれば、ニューサウスウェールズ州とクィーンズランド州で乾燥型の天候が引き続いているため、2019/20年度の見込みは、6月の見通し(21.9百万トン)から2.7百万トン下方修正され、19.2百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、生産予測の下方修正により前月予測から2.0百万トン下方修正され、10.5百万トン。このため、豪州から小麦を輸入しているアジア諸国では輸入量予測が前月に比べ下方修正(インドネシア0.5百万トン、ベトナム0.3百万トン、中国0.3百万トン等)された。

ABARESによれば、2019/20年度の見込みは6月の見通しから0.9百万トン下方修正され、10.8百万トンとなる見込み。なお、8月30日に2年連続の作柄悪化からカナダ産小麦36万トンの輸入ライセンスが発行されている。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

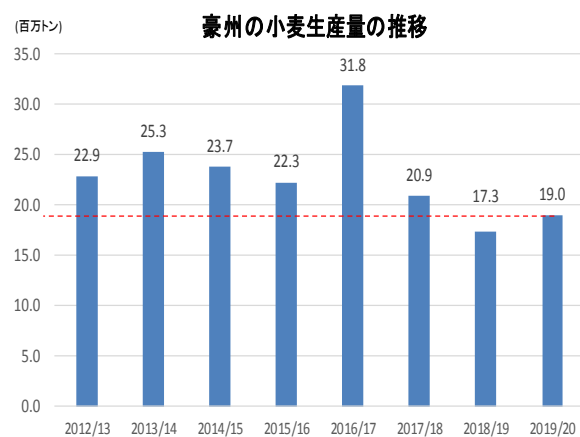
(単位:百万トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、( )はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	20.9	17.3	19.0 (21.2)	▲ 2.0	9.8
消費量	7.5	9.2	8.5 (8.7)	-	▲ 7.6
うち飼料用	4.0	5.7	5.0 (5.1)	-	▲ 12.3
輸出量	13.9	9.0	10.5 (12.8)	▲ 2.0	16.7
輸入量	0.2	0.4	0.2 (0.2)	-	▲ 58.3
期末在庫量	5.5	5.0	5.1 (5.0)	-	3.0
期末在庫率	25.8%	27.3%	26.9% (23.1%)	2.6	▲ 0.4

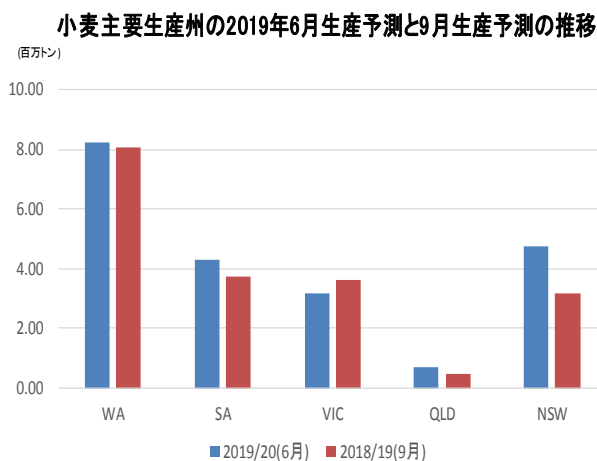
(参考)

収穫面積(百万ha)※	10.92	10.16	10.70 (10.97)	▲ 0.30	5.3
単収(t/ha)	1.92	1.70	1.78 (1.93)	▲ 0.13	4.7

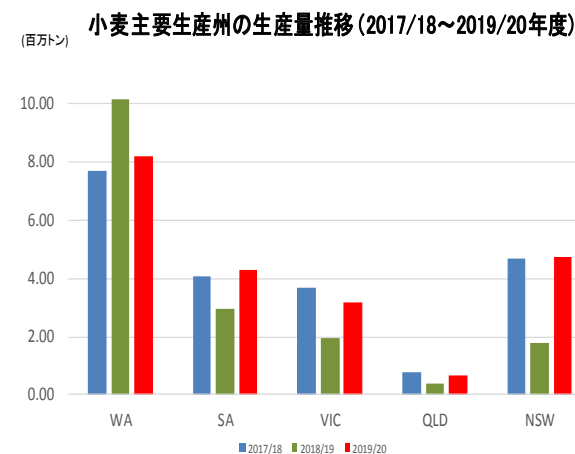
資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(29 August 2019)



資料:USDA「PS&D」(2019.9.12)をもとに農林水産省にて作成



資料:豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian crop report」(2019.9.10)をもとに農林水産省にて作成



## 2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

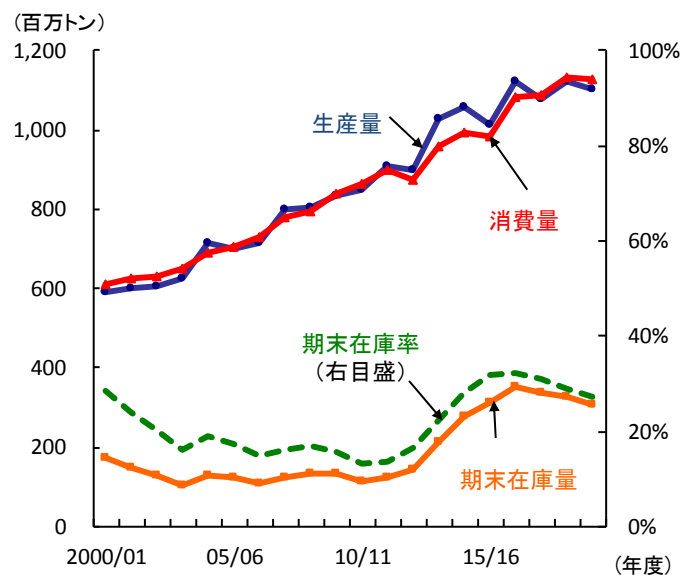
2019/20 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓  
 ・米国、ウクライナ等で下方修正により、前月から下方修正された。

**消費量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓  
 ・米国等で下方修正により、前月から下方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↓ 前月比 -  
 ・前月予測から変更なし。

**期末在庫量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2019.9.12)をもとに農林水産省にて作成

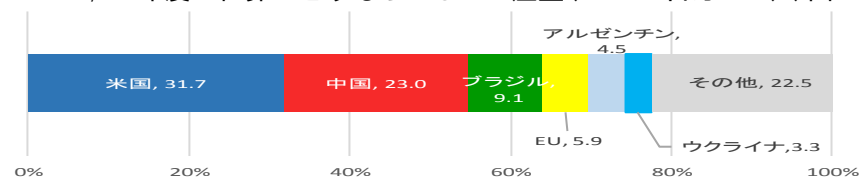
## ◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

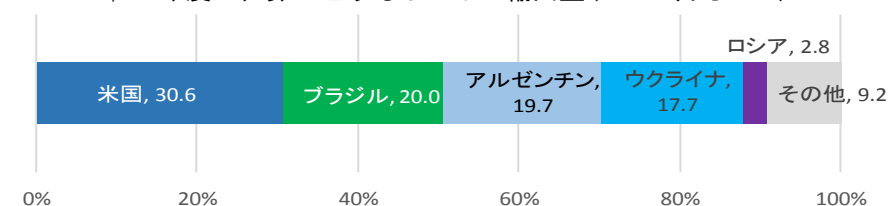
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,078.1	1,122.2	1,104.9	▲ 3.4	▲ 1.5
消費量	1,089.9	1,132.2	1,128.2	▲ 0.9	▲ 0.4
うち飼料用	673.1	697.4	694.2	▲ 0.2	▲ 0.5
輸出量	148.6	176.2	169.9	0.0	▲ 3.6
輸入量	150.0	164.1	169.4	0.1	3.3
期末在庫量	339.6	329.6	306.3	▲ 1.5	▲ 7.1
期末在庫率	31.2%	29.1%	27.1%	▲ 0.1	▲ 2.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2019)

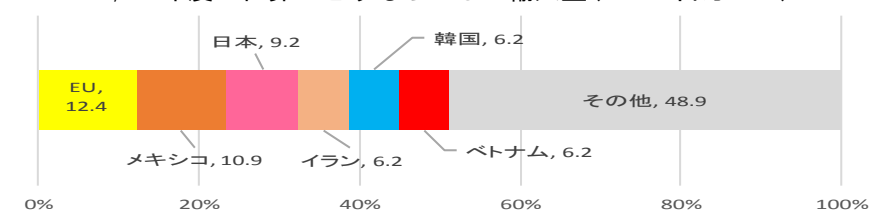
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量(1104.9百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量(169.9百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量(169.4百万トン)





(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】3月から6月まで断続的に続いた降雨により、作付け、生育に遅れが生じた。7月末から8月上旬にかけて、おおむね良好な天候で例年より約1週間遅れで受粉が完了し、9月には成熟期を迎えている。

なお、米国農務省(USDA)「Crop Progress」(2019.9.16)によれば、収穫が開始されたが、9月15日時点の収穫率は4%と、過去5年平均(7%)より遅れている。現地では、収穫遅れによる霜害発生懸念がある。

生産量は、9月の現地調査結果等を反映し単収が引き下げられたことから、前月予測から2.6百万トン下方修正され、前年比4.3%減の350.5百万トンの見通し。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、エタノール用需要で前月予測から0.6百万トン下方修正され、前年度比0.2%減の306.2百万トン。期首在庫が上方修正されたことから、期末在庫量が0.2百万トン上方修正され、55.6百万トンの見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、南米等の輸出余力が増加していることから、前年度比0.5%減の52.1百万トンの見込み。なお、輸出検証高(2019年1月3日～9月5日)は、29.5百万トンで、内訳は、メキシコ(9.0百万トン)、日本(8.9百万トン)、コロンビア(2.8百万トン)の順。

とうもろこしー米国

(単位:百万トン)

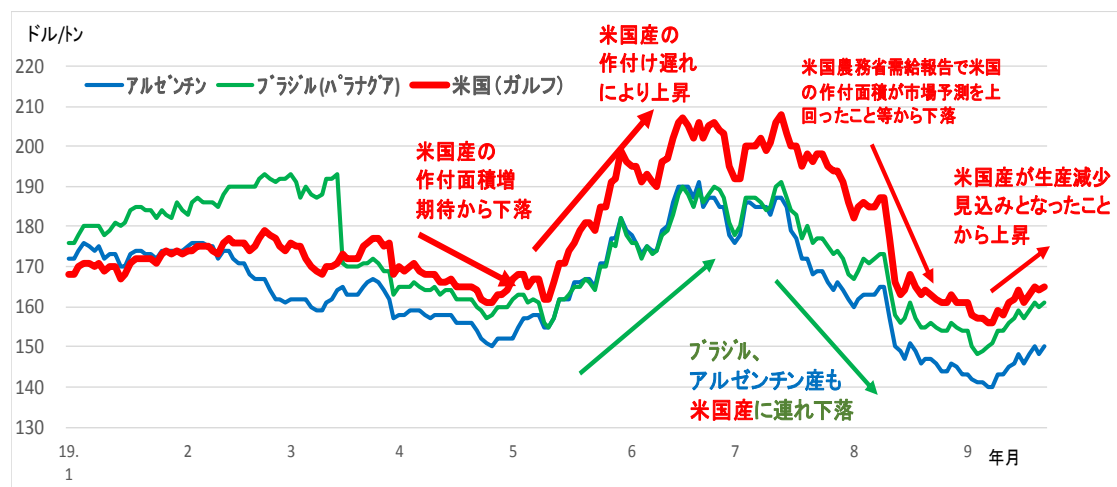
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	371.1	366.3	350.5	▲ 2.6	▲ 4.3
消費量	314.0	306.9	306.2	▲ 0.6	▲ 0.2
うち飼料用	134.7	134.0	131.5	-	▲ 1.9
エタノール用等	142.4	136.5	138.4	▲ 0.6	1.4
輸 出 量	61.9	52.3	52.1	-	▲ 0.5
輸 入 量	0.9	0.6	1.3	-	98.4
期末在庫量	54.4	62.1	55.6	0.2	▲ 10.5
期末在庫率	14.5%	17.3%	15.5%	0.1	▲ 1.8

(参考)

収穫面積(百万ha)	33.48	33.08	33.19	-	0.3
単収(t/ha)	11.08	11.07	10.56	▲ 0.08	▲ 4.6

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

写真: 米国アイオワ州の  
とうもろこし(9月16日撮影)

コーンベルト西部のアイオワ州は、春の降雨過多の被害が少なく、良好に生育している。



< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、例年10月以降作付けされる2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく、前年度と同じ101.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2019.9.10)によれば、2018/19年度のとうもろこし(夏冬の合計)の生産量は100.0百万トンと2017/18年度(80.7百万トン)より大幅に増加し、史上最高となる見込み。うち、夏とうもろこしは26.2百万トン(前年度比2.1%減)、8月末で収穫がほぼ終了した冬とうもろこしは73.8百万トン(前年度比36.9%増)である。(P.17大豆-ブラジルのクロープカレンダー参照)。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2018/19年度の輸出量は38.0百万トンに増加し、2019/20年度も34.0百万トンが見込まれ、世界第2位の輸出国の座をアルゼンチン、ウクライナと争っている。(図参照)。

ブラジル貿易統計によると、8月の輸出量は7.6百万トンで、主な輸出先は、エジプト、イラン及び日本となっている。2019年1～8月までの輸出量累計は、22.7百万トンで、前年同期の2.5倍となっている。冬とうもろこしの収穫に伴い、輸出が最盛期を迎えている。

とうもろこし-ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)  
(単位:百万トン)

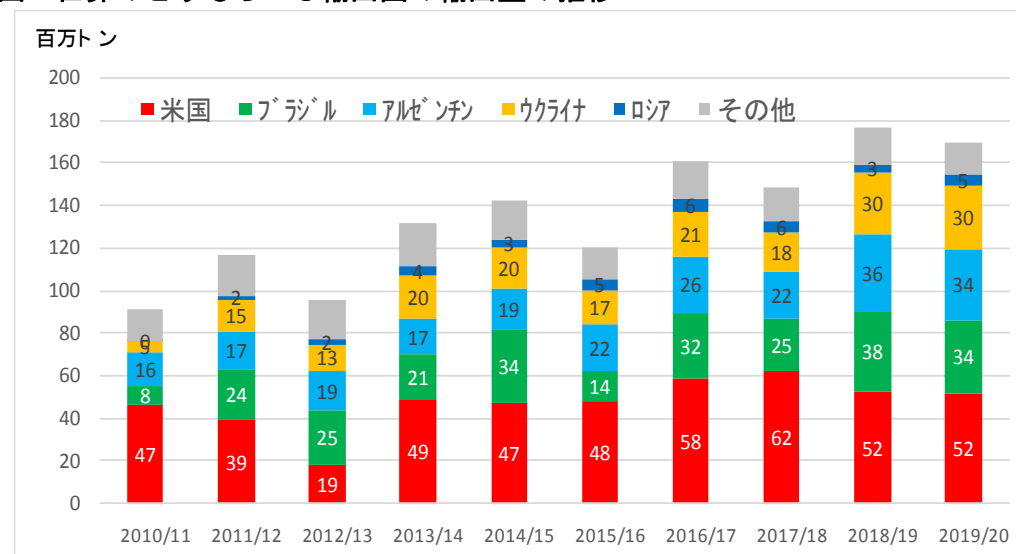
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、( )はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	82.0	101.0	101.0	(101.0)	-	-
消費量	64.5	66.0	68.0	(67.5)	-	3.0
うち飼料用	55.0	56.0	57.0	(53.5)	-	1.8
輸 出 量	25.0	38.0	34.0	(34.0)	-	▲ 10.5
輸 入 量	0.9	1.0	1.0	(0.3)	-	-
期末在庫量	7.5	5.5	5.5	(6.6)	▲ 0.8	-
期末在庫率	8.4%	5.3%	5.4%	(6.5%)	▲ 0.0	0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	16.60	17.50	18.10	(17.80)	-	3.4
単収(t/ha)	4.94	5.77	5.58	(5.67)	-	▲ 3.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(29 August 2019)

図: 世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2019.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】ブエノスアイレス穀物取引所の週報(2019.9.5)によれば、収穫の終了した2018/19年度の生産量は史上最高の48.0百万トンとなる見通し。

また、ブエノスアイレス穀物取引所の週報(2019.9.19)によれば、2019/20年度の作付けが開始され、作付面積は6.2百万ヘクタールの見通しで、同日時点の進捗率は5.5%である。

なお、USDAによれば、9月以降作付けされる2019/20年度の実生産量は、前月予測から変更はなく50.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の実輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比6.9%減の33.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2019年7月の輸出量が4.4百万トンで1～7月の累計では21.5百万トンとなっている。7月分の主要輸出先は、ベトナム、ペルー、アルジェリアである。

< 中国 >

【生育・生産状況】とうもろこしは、9月上旬時点で順調に乳熟期を迎えている。生育状況は天候に恵まれ概ね良好である。

USDAによれば、2019/20年度の実生産量は、前月予測から変更はなく、作付面積の減少により、前年度より1.3%減の254.0百万トンの見込み。政府による在庫解消政策として、大豆への作付け転換が奨励されている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の実消費量は、前月予測から変更はなく277.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から、中国財政部によれば、2018年7月から米国産とうもろこし輸入に賦課していた25%の関税に加え、2019年12月15日以降、追加関税(10%)を賦課する見通し。

中国貿易統計によれば、2019年1～8月の輸入量は3.7百万トンで、内訳は、ウクライナ産が3.5百万トン(93%)、米国産が0.1百万トン(4%)である。

とうもろこしーアルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.0	51.0	50.0 (56.1)	-	▲ 2.0
消費量	12.4	13.8	15.0 (23.0)	-	8.7
うち飼料用	8.5	9.7	10.3 (18.0)	-	6.2
輸 出 量	22.0	36.0	33.5 (33.5)	-	▲ 6.9
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.9	4.1	5.6 (6.5)	-	36.7
期末在庫率	8.4%	8.2%	11.5% (11.5%)	-	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	6.10	6.10 (7.50)	-	-
単収(t/ha)	6.15	8.36	8.20 (7.47)	-	▲ 1.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(29 August 2019)

とうもろこしー中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、( )はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	259.1	257.3	254.0 (253.6)	-	▲ 1.3
消費量	263.0	273.0	277.0 (281.6)	-	1.5
うち飼料用	187.0	190.0	188.0 (175.0)	-	▲ 1.1
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-
輸 入 量	3.5	5.0	7.0 (5.0)	-	40.0
期末在庫量	222.5	211.8	195.8 (181.5)	-	▲ 7.6
期末在庫率	84.6%	77.6%	70.7% (64.5%)	-	▲ 6.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	42.40	42.13	41.00 (41.48)	-	▲ 2.7
単収(t/ha)	6.11	6.11	6.20 (6.11)	-	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
IGC 「Grain Market Report」(29 August 2019)

### 3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

**生産量** 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・インド、米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

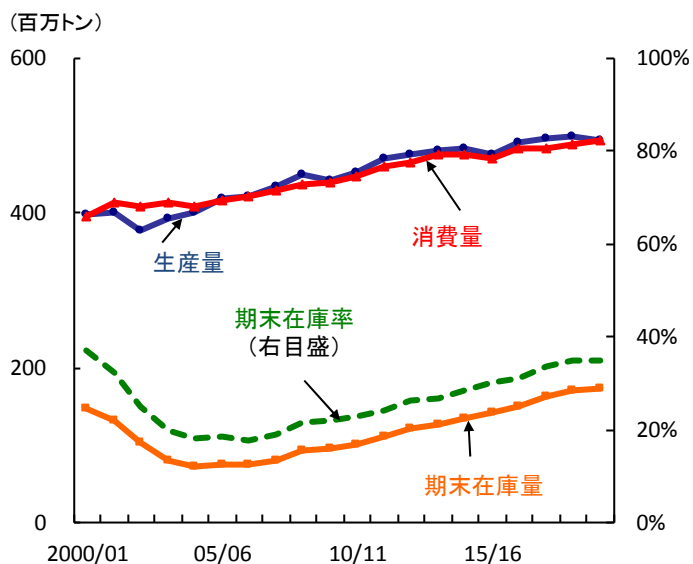
**消費量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

**輸出量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・インド、タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料 : USDA 「PS&D」 (2019. 9. 12) をもとに農林水産省にて作成

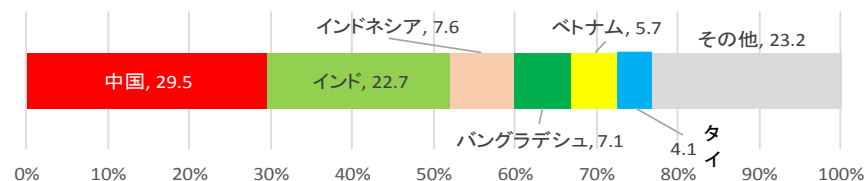
### ◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

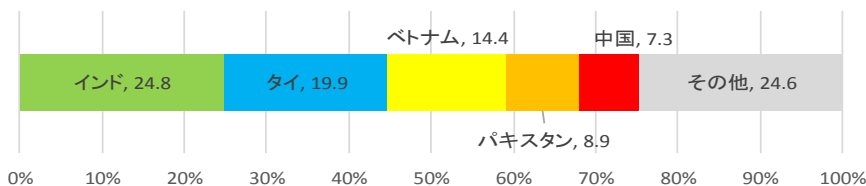
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	494.9	499.0	494.2	▲ 3.6	▲ 0.9
消費量	482.2	489.4	493.3	▲ 1.2	0.8
輸出量	47.1	45.1	45.1	▲ 1.5	0.0
輸入量	46.7	44.5	43.9	▲ 0.0	▲ 1.4
期末在庫量	162.3	171.8	172.7	▲ 1.9	0.5
期末在庫率	33.6%	35.1%	35.0%	▲ 0.3	▲ 0.1

資料 : USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 September 2019)

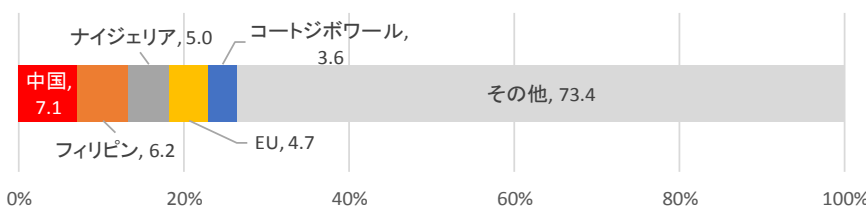
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (494.2 百万トン) (単位 : %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (45.1 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (43.9 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】4月から6月に断続的に続いた降雨により南部の長粒種産地で作付け、生育に遅れが生じた。米国農務省（USDA）の「Crop Progress」（2019.9.16）によれば、9月15日時点の収穫率は生産州全体で46%となっており、過去5か年平均に比べ、2ポイント遅れている。

なお、中・短粒種の生産州であるカリフォルニア州の作柄は良からやや良が100%と良好。収穫率は5%と、過去5か年平均に比べ1ポイントの遅れとなっている。

USDAによれば、生産量は、中・短粒種の収穫面積は上方修正されたが、降雨過多によりミシシッピデルタ上流部の作付けが影響を受け、長粒種の収穫面積が大きく下方修正されたことから、前月予測から0.6百万トン下方修正され、対前年度比16.4%減の6.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、生産量の下方修正により、下方修正され、対前年度1.7%増の3.0百万トンとなる見通し。輸入量はわずかに長粒種で上方修正され、史上最高の0.9百万トン(前年度比2.2%増)の見込み。

< インド >

【生育・生産動向】現地コンサルタントによると、インド西部では田植えがほぼ終了し、成長期である。東部では成長期であり、南部および南東部では田植えから成長期である。モンスーン期の降雨の遅れにより作付け進捗が多少遅れていたが、7月から9月にかけてインド全域で降雨が継続していることから、生産への影響は解消されたとみられる。

USDAによれば、東部での乾燥によるカリフ米の作付減少による収穫面積の下方修正により生産量は前月から3.0百万トン下方修正され、対前年度比3.8%減の112.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量の減少から下方修正され、11.2百万トンと前年度より減少するものの、9年連続で世界第1位の輸出国となる見込み。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから、9月時点の政府備蓄量は27.5百万トンと10月1日時点の備蓄必要量（10.3百万トン）を大きく上回っている。

米－米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培  
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.7	7.1	6.0	▲ 0.6	▲ 16.4
消費量	4.3	4.6	4.2	▲ 0.2	▲ 9.2
輸出量	2.8	3.0	3.0	▲ 0.2	1.7
輸入量	0.9	0.9	0.9	0.0	2.2
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.4	▲ 19.7
期末在庫率	13.2%	18.8%	15.9%	▲ 4.0	▲ 2.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	0.96	1.18	1.00	▲ 0.10	▲ 15.3
単収(もみt/ha)	8.41	8.62	8.48	▲ 0.01	▲ 1.6

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)

米－インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	112.8	116.4	112.0 (115.5)	▲ 3.0	▲ 3.8
消費量	98.7	101.2	102.0 (102.0)	-	0.8
輸出量	12.0	11.6	11.2 (11.8)	▲ 0.8	▲ 3.4
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	22.6	26.2	25.0 (29.0)	▲ 1.5	▲ 4.6
期末在庫率	20.4%	23.2%	22.1% (25.5%)	▲ 1.2	▲ 1.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	42.90	44.50	43.00 (43.25)	▲ 1.00	▲ 3.4
単収(もみt/ha)	3.94	3.92	3.91 (2.67)	▲ 0.01	▲ 0.3

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)

IGC 「Grain Market Report (29 August 2019)」 (単収は精米t/ha)

## <ベトナム>

【生育・生産動向】現地情報によれば、2018/19年度の夏作は全国的に作付けが終了し、作付面積は前年度比97.6%の1.3百万ヘクタール。夏秋作は対前年比97.1%の2.0百万ヘクタールの作付面積となっており、前年度より早く作付けが進展し、収穫は終盤を迎えている。メコンデルタを中心に行われている秋冬作は、前年比97.6%の0.4百万ヘクタールの作付面積となっており、分けつ期から出穂期を迎えている。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、対前年度比1.4%増の28.3百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】2019年8月のインディカ精米（碎米5%）の輸出価格は、327ドル/トンで、前年同月（403ドル/トン）と比べ低水準。同年1～8月の輸出量は、4.6百万トンと対前年同期比（4.5百万トン）で1.1%増となっている。前年度と比較して、フィリピン、コートジボワール、香港向けの輸出が大きく伸びている（約3倍）ものの、かつての主要輸出先であった中国、インドネシア向けが輸入需要の減退から8割減となっている。

## <タイ>

【生育・生産動向】現地情報によれば、干ばつ被害が最も深刻であった北東部や北部では、降雨があり2018/19年度の作付けが進展した。北部、中部では登熟期を迎えている。なお、北東部では、9月上旬のサイクロンによる洪水の被害により、雨季作の生産量への影響が懸念。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の生産量は、対前年度比0.2%減の20.5百万トンの見込みで前月予測から変わらず。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、価格上昇による輸出競争力の減少から、前月予測から0.5百万トン下方修正され、9.0百万トンの見込み。

2019年1～7月の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、バーツ高等により、前年同期比21.6%減の4.9百万トンとなった。主な輸出先は、ベナン（94.3万トン）、南アフリカ（39.9万トン）である。

9月18日時点のタイ産米（100%2等）の輸出価格は443ドル/トンで、ベトナム産より2割程度割高であることから、タイ産米の需要が低迷している。

## 米-ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.7	27.9	28.3 (29.3)	-	1.4
消費量	21.5	21.5	22.0 (22.9)	-	2.3
輸出量	6.6	6.5	6.5 (6.6)	-	-
輸入量	0.5	0.4	0.4 (0.4)	-	-
期末在庫量	1.0	1.4	1.6 (3.6)	-	14.7
期末在庫率	3.7%	4.9%	5.5% (12.4%)	-	0.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	7.65	7.67	7.67 (7.65)	-	-
単収(もみt/ha)	5.79	5.83	5.91 (3.82)	-	1.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
IGC 「Grain Market Report (29 August 2019)」 (単収は精米t/ha)

## 米-タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.6	20.3	20.5 (19.7)	-	0.8
消費量	11.0	11.2	11.2 (10.9)	0.2	-
輸出量	11.1	8.7	9.0 (9.5)	▲ 0.5	3.4
輸入量	0.3	0.3	0.3 (0.3)	-	-
期末在庫量	3.0	3.7	4.3 (3.5)	0.2	14.9
期末在庫率	13.6%	18.6%	21.0% (16.9%)	1.2	2.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	10.76	10.83	10.90 (10.60)	-	0.6
単収(もみt/ha)	2.90	2.85	2.85 (1.86)	-	-

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
IGC 「Grain Market Report (29 August 2019)」 (単収は精米t/ha)

< 中国 >

【生育・生産動向】9月上旬現在、2019/20年度の二期作早稲は、収穫済みとなっている。二期作晩稲は、穂孕み期から出穂期に入っている。一期作稲は、ジャポニカ米主産地の東北地方では乳熟期で、雲南、四川省では乳熟期から成熟期、安徽、江蘇省では出穂から乳熟期に入っている。8月の天候や土壌水分状況は比較的良好で、生育状況は概ね良好である。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、大豆への作付転換政策の影響で収穫面積及び単収ともに減少することから、対前年度比1.7%減の146.0百万トンの見込み。

中国国家統計局が8月26日付けで2019年のインディカ早期米の生産見通しを公表。生産量は26.3百万もみトンで、前年度より2.3百万もみトン(8.1%減)の減産。作付面積が減少したのは、早期米の収益性が悪いため、低品質な早期米品種を他の収益性の高い作物へ作付け転換したこと等が要因。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、対前年度19.1%増の3.3百万トンの見込み。これは、政府備蓄在庫の古米が含まれることから特に中粒種の輸出価格が米国や豪州に比べ約半額となっていること、エジプト及び豪州が生産減少により輸出国から輸入国に転じたことを背景に、価格を重視するアフリカや中東の輸入国にとって魅力的な選択肢となっているためである。この結果、米国の従来輸出市場であったトルコやヨルダン、リビアに加え、米領プエルトリコなどへも進出している。

一方、輸入量は国内在庫の積み上がりから輸入需要が減退したため、前月予測から0.2百万トン下方修正され、3.1百万トンの見通し。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」(8月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,740元/トン、3,920元/トン、4,200元/トン。夏季休暇が終了し、学生食堂向けのインディカ米の買付が回復したため、インディカ米の需要が増加し、価格がわずかに上昇した。一方、ジャポニカ米の価格がインディカ米と比較して高かったため、ジャポニカ米の価格が下落した。

米-中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	148.9	148.5	146.0 (147.4)	-	▲ 1.7
消費量	142.5	143.0	143.0 (143.5)	-	0.0
輸出量	1.4	2.8	3.3 (3.5)	-	19.1
輸入量	5.5	3.3	3.1 (3.4)	▲ 0.2	▲ 4.6
期末在庫量	109.0	115.0	117.8 (115.2)	▲ 0.2	2.4
期末在庫率	75.8%	78.9%	80.5% (78.4%)	▲ 0.1	1.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	30.75	30.19	30.00 (30.05)	-	▲ 0.6
単収(もみt/ha)	6.92	7.03	6.95 (4.91)	-	▲ 1.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
IGC 「Grain Market Report (29 August 2019)」 (単収は精米t/ha)

## II 油糧種子 大豆

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

**生産量** 前年度比 前月比

・米国等で下方修正され、前月から下方修正された。

**消費量** 前年度比 前月比

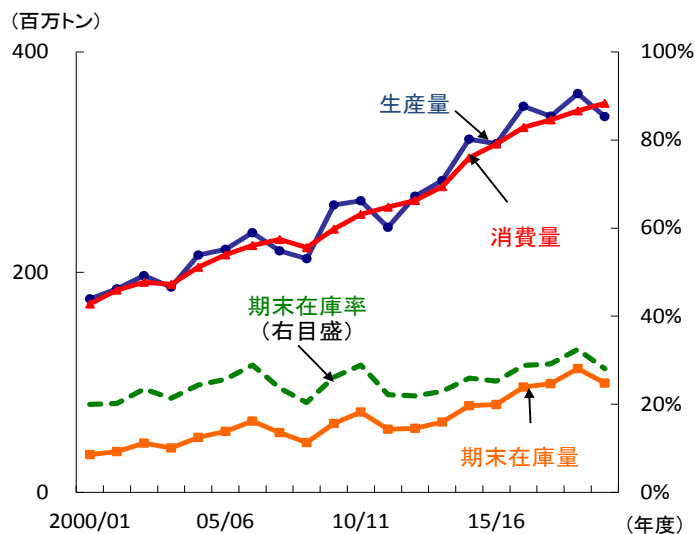
・EU 等で下方修正され、前月から下方修正された。

**輸出量** 前年度比 前月比

・カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。

**期末在庫量** 前年度比 前月比

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)



資料：USDA「PS&D」(2019.9.12)をもとに農林水産省で作成。

## ◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

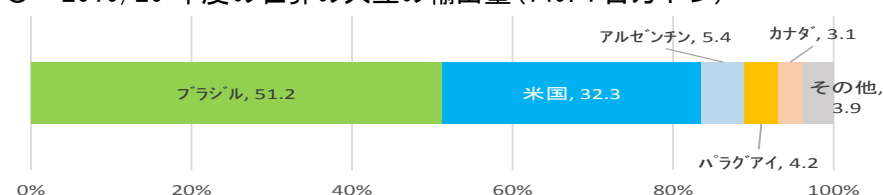
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	341.6	362.1	341.4	▲ 0.4	▲ 5.7
消費量	338.4	346.5	353.4	▲ 0.9	2.0
うち搾油用	295.2	299.6	306.2	▲ 0.8	2.2
輸出量	153.1	148.6	149.4	0.2	0.6
輸入量	153.0	146.6	148.2	▲ 0.7	1.1
期末在庫量	98.8	112.4	99.2	▲ 2.6	▲ 11.8
期末在庫率	29.2%	32.4%	28.1%	▲ 0.6	▲ 4.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 September 2019)

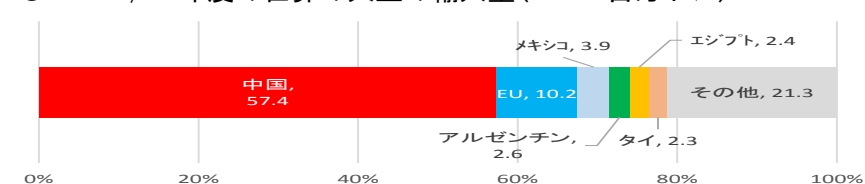
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量 (341.4 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量 (149.4 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量 (148.2 百万トン)





(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2019/20 年度の生産量は、前月予測から 1.3 百万トン下方修正され 98.9 百万トンの見込み。USDA は、9 月の現地調査結果等を反映し、単収を下方修正している。「Oil Crops Outlook」(2019.9.16)によると、8 月は、平年並みの天候であったが、今年度は、作付け時期が遅れたことから、収穫に必要な成熟と乾燥には、今後時間を要するため、大部分の大豆の収穫は 10 月にずれこむとみられる。

「Crop Progress」(2019.9.16)によれば、中西部での降雨により作付けが遅れたため、9 月 15 日時点の主要 18 州における着莢率は 95%と前年度及び過去 5 年平均の 100%を下回っている。落葉率も 15%と、前年度 50%及び過去 5 年平均 38%を下回っている。特にコーンベルト東部のイリノイ州 3%（前年度 55%）、インディアナ州 5%（前年度 60%）で遅れている。作柄評価は、良からやや良が 54%と、前年度の 67%より低下している。なお、収穫遅れによる霜害の懸念も生じている。

【貿易情報・その他】2019/20 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく 48.3 百万トンの見込み。

期末在庫量は、生産量の減少から前月予測から 3.1 百万トン下方修正され、17.4 百万トンの見込み。輸出検証高（2019 年 1 月 3 日～9 月 5 日）は、29.6 百万トンであり、内訳は中国（13.2 百万トン）、メキシコ（3.2 百万トン）の順である。

写真：米国インディアナ州の大豆  
（9 月 23 日撮影）

コーンベルト東部のインディアナ州は、春の降雨過多の影響で、生育が大幅に遅れ、例年は葉が黄変しているところ、青々としている。



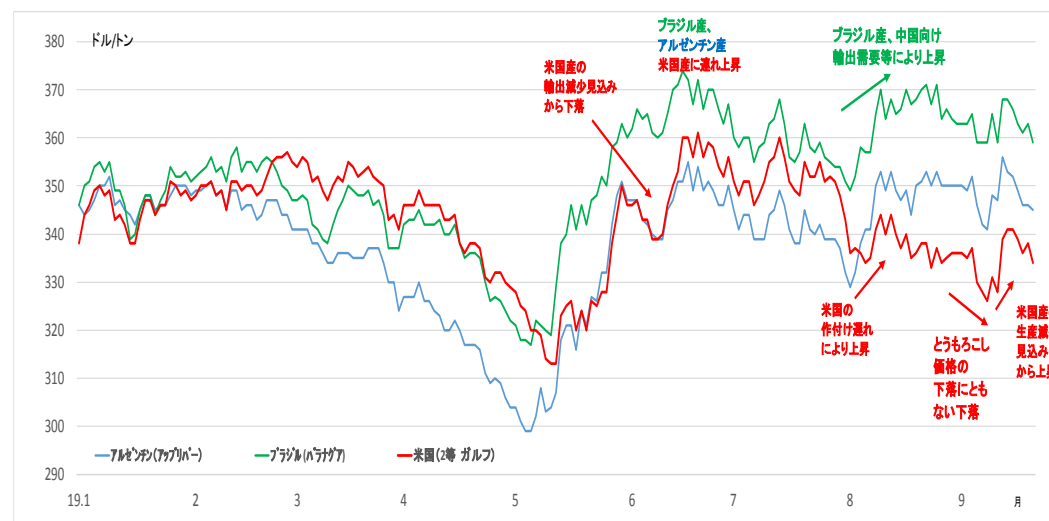
大豆－米国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.1	123.7	98.9	▲ 1.3	▲ 20.0
消費量	58.9	61.2	61.0	0.1	▲ 0.3
うち搾油用	55.9	56.7	57.6	-	1.4
輸 出 量	58.1	47.5	48.3	-	1.7
輸 入 量	0.6	0.5	0.5	-	17.4
期末在庫量	11.9	27.4	17.4	▲ 3.1	▲ 36.3
期末在庫率	10.2%	25.2%	15.9%	▲ 2.9	▲ 9.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	36.24	35.66	30.70	-	▲ 13.9
単収(t/ha)	3.31	3.47	3.22	▲ 0.04	▲ 7.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格（FOB）の推移



資料：IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の123.0百万トンの見込み。本年9月以降に作付けが開始される。報道によると、ブラジルの最大の生産州であるマトグロッソ州では、9月中旬から作付けが開始された。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、46.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく76.5百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。

ブラジル貿易統計によると、2019年1月～8月の輸出量は、56.8百万トンで、中国向けが最も多い。ブラジル食料供給公社（CONAB）によれば、ブラジルの輸出港プレミアムは上昇しており、中国向け輸出需要が大きいことから、8月のブラジルの輸出港プレミアムは7月に比べて4割程増加したという。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2018/19年度の大豆は、2019年2月には収穫が終了し、冬とうもろこしを栽培。

収穫後、2019/20年度の大豆の作付けを2019年9月以降開始。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2018/19年度	2018年												2019年								
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
夏とうもろこし	リオグランデスル州等 作付 4.9(百万ha)												収穫 26.2(百万t) → 収穫夏冬計 100.0								
冬とうもろこし	← 作付面積夏冬計 17.5												作付 12.6 → 収穫 73.8								
大豆	マトグロッソ州、パラナ州等 作付 35.9												↑ 早熟種大豆収穫後冬とうもろこし播種 収穫 115.0								

資料: CONAB 穀物レポート(2019.9.11)

大豆—ブラジル

百万トン

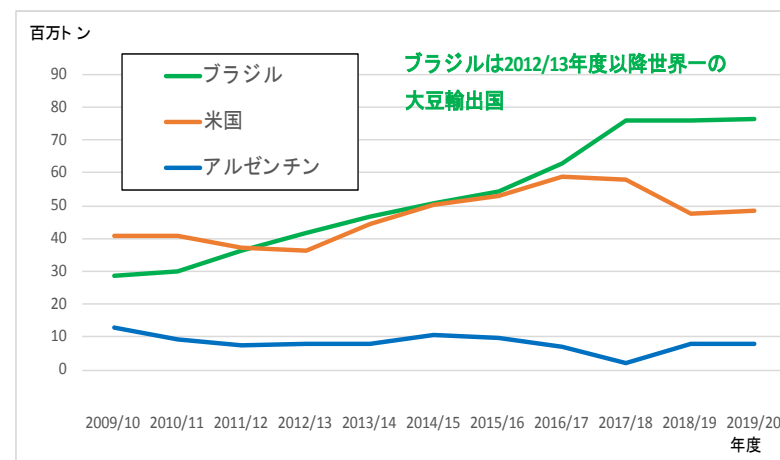
年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、( )はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	122.0	117.0	123.0 (122.8)	-	5.1
消費量	46.5	45.9	46.5 (…)	-	1.4
うち搾油用	44.5	43.2	43.8 (44.8)	-	1.3
輸 出 量	76.2	75.8	76.5 (75.0)	-	0.9
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (…)	-	33.3
期末在庫量	32.7	28.2	28.4 (2.0)	1.1	0.7
期末在庫率	26.7%	23.2%	23.1% (…)	0.9	▲ 0.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	35.15	35.90	36.90 (36.70)	-	2.8
単収(t/ha)	3.47	3.26	3.33 (3.33)	-	2.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(16 August 2019)

図：主要大豆輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2019.9.12)をもとに農林水産省で作成。

## 大豆－カナダ

(単位:百万トン)

< カナダ >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、収穫面積の上方修正から、前月予測から0.3百万トン上方修正され6.5百万トンの見込み。

【需給動向】USDAによれば、前月からの変更はなく、2.1百万トンの見込み。一方、カナダ農務農産食品省(AAFC)によれば、米国からの安価な大豆粕輸入や、国内における大豆油需要が横ばいであることから、国内での搾油量は前年度と比べわずかに減少している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量が上方修正されたことから、前月予測から0.2百万トン上方修正され4.6百万トンの見込み。

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.7	7.3	6.5 (6.5)	0.3	▲ 10.6
消費量	2.9	3.0	3.0 (2.4)	0.0	0.2
うち搾油用	1.9	2.1	2.1 (1.9)	-	1.1
輸 出 量	4.9	5.0	4.6 (4.7)	0.2	▲ 8.0
輸 入 量	0.5	1.2	0.8 (0.4)	-	▲ 33.3
期末在庫量	0.6	1.1	0.9 (0.5)	0.04	▲ 24.6
期末在庫率	8.1%	14.1%	11.2% (6.3%)	0.2	▲ 2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.94	2.54	2.30 (2.30)	0.10	▲ 9.4
単収(t/ha)	2.63	2.84	2.83 (2.82)	0.01	▲ 0.4

資料：USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、

「World Agricultural Production」(12 September 2019)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(20 September 2019)

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.0百万トンの見込み。なお、2018/19年度の収穫は、2019年6月までに終了し、単収は過去最高となった。2019/20年度の作付けは、本年10月以降、開始される。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は前月予測から変更はなく、8.0百万トンの見込み。

なお、アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。アルゼンチン農牧水産省は、9月11日、従来輸出を行っていなかった中国向けに、大豆粕輸出が可能となる協定を中国と締結すると発表した。今後、アルゼンチン産大豆粕の輸出が拡大すると予想される。

## 大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.8	55.3	53.0 (53.2)	-	▲ 4.2
消費量	43.6	48.2	52.2 (…)	-	8.3
うち搾油用	36.9	41.3	45.0 (…)	-	9.1
輸 出 量	2.1	7.9	8.0 (…)	-	1.3
輸 入 量	4.7	6.4	3.9 (…)	-	▲ 38.6
期末在庫量	23.8	29.4	26.1 (…)	▲ 1.1	▲ 11.1
期末在庫率	51.9%	52.4%	43.4% (…)	▲ 0.02	▲ 9.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.60	17.50 (17.00)	-	5.4
単収(t/ha)	2.32	3.33	3.03 (3.13)	-	▲ 9.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(12 September 2019)

OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(16 August 2019)

< 中国 >

【生産・生育状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から0.1百万トン上方修正され、17.1百万トンの見込み。中国では、大豆生産振興に力を入れており、直近5年間で生産量は増加している。

【需給動向】2019/20年度の消費量は、2018年に発生したアフリカ豚コレラの影響から中国国内の飼料用需要が低調なため、前月予測から変更はなく、102.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸入量は前月予測から変更はなく85.0百万トンの見込み。

また、本年9月以降、米国産大豆に30%の追加関税が課されているが、報道によれば、一部の輸入について、適用が除外された事例があるという。今後の米中関係の動向には、注視が必要である。

中国の貿易統計によれば、8月の輸入量は、9.5百万トンと前年度同月と比べ、0.3百万トン増加した。内訳は、ブラジル産6.7百万トン、米国産1.7百万トンである。

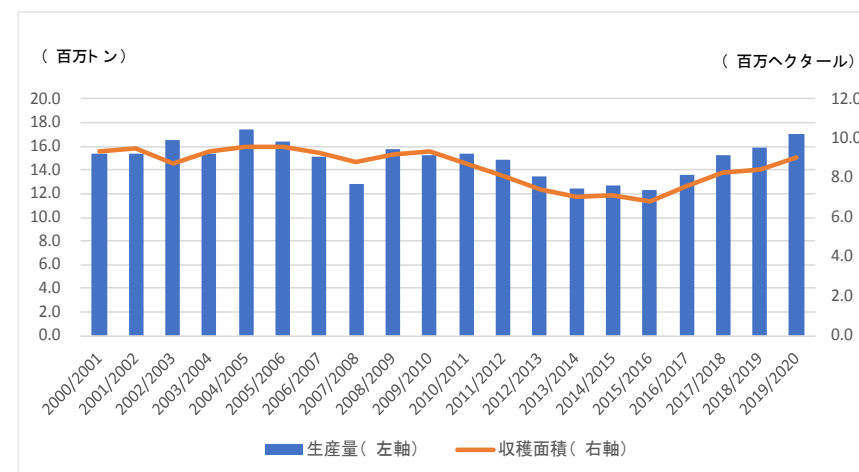
### 大豆—中国

(単位:百万トン)

年 度	2017/18	2018/19 (見込み)	2019/20			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	15.3	15.9	17.1 (16.7)	0.1	7.5	
消費量	106.3	102.1	102.7 (…)	-	0.6	
うち搾油用	90.0	85.0	85.0 (…)	-	-	
輸 出 量	0.13	0.12	0.13 (…)	-	8.3	
輸 入 量	94.1	83.0	85.0 (…)	-	2.4	
期末在庫量	23.1	19.7	19.0 (…)	▲ 0.4	▲ 3.6	
期末在庫率	21.7%	19.3%	18.5% (…)	▲ 0.3	▲ 0.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.25	8.40	9.00 (8.25)	▲ 0.10	7.1	
単収(t/ha)	1.84	1.89	1.90 (2.04)	0.03	0.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、  
「World Agricultural Production」(12 September 2019)  
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(16 August 2019)

図：中国の大豆生産量と収穫面積の推移



資料：USDA「PS&D」(2019.9.12)をもとに農林水産省で作成。

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

	小麦	とうもろこし	米	大豆
米国	19年6月～20年5月	19年9月～20年8月	19年8月～20年7月	19年9月～20年8月
カナダ	19年8月～20年7月			19年8月～20年7月
豪州	19年10月～20年9月		20年3月～21年2月	
EU	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		
中国	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月
ロシア	19年7月～20年6月	19年10月～20年9月		19年9月～20年8月
ブラジル		20年3月～21年2月	20年4月～21年3月	19年10月～20年9月
アルゼンチン	19年12月～20年11月	20年3月～21年2月		19年10月～20年9月
タイ			20年1月～12月	
インド	19年4月～20年3月		19年10月～20年9月	
ベトナム			20年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

## 【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2019年9月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

[http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY\\_REPORTS](http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS)

### 主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。  
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社
JAXA	宇宙航空研究開発機構
ASF	アフリカ豚コレラ

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

[http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j\\_rep/index.html](http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html)

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

<b>連絡先</b> <b>農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室</b> <b>TEL：03-3502-8111 (内線 3805)</b>
--